

2019年10月28日

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団

2019年度持田記念学術賞ならびに研究助成等について

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団（理事長：持田直幸、以下「当財団」）は2019年度の持田記念学術賞受賞者、ならびに研究助成金および留学補助金交付対象者を決定しましたのでお知らせいたします。

今年度の持田記念学術賞には19名の研究者が推薦され、その中から東京大学の浦野泰照博士と大阪大学の竹田潔博士を選出しました（褒賞金：1000万円/件）。研究助成および留学補助には716件の申請があり、研究助成金交付対象者121名（300万円/件）、留学補助金交付対象者20名（50万円/件）を選出しました。

持田記念学術賞、ならびに研究助成金および留学補助金の贈呈式を2019年11月8日（金）15時よりステーションコンファレンス東京（東京都千代田区）において行います。今年度は研究者招聘助成金交付対象14学会（50万円/件）を含めて研究助成金等として総額4億円を贈呈します。

研究領域		研究助成	留学補助	学術賞	招聘助成
領域1	バイオ技術を基盤とする先端医療に関する研究	14件	4件	2件	14件
領域2	バイオ技術を基盤とするゲノム機能/病態解析に関する研究	20件	2件		
領域3	免疫/アレルギー/炎症の治療ならびに制御に関する研究	22件	3件		
領域4	循環器/血液疾患の病態解析/治療制御に関する研究	19件	6件		
領域5	創薬・創剤の基盤に関する研究	28件	3件		
領域6	創薬とその臨床応用に関する研究	18件	2件		
合計		121件	20件	2件	14件

当財団は1983年10月の設立以来、研究助成2234件（計42億6899万円）、留学補助531件（計2億6550万円）、持田記念学術賞72件（計3億7200万円）、研究者招聘助成272件（計1億3600万円）の総額50億4249万円の助成ならびに贈呈を行っております。当財団は、今後も多くの研究者へ研究支援を行い、医学・薬学の振興に貢献してまいります。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

公益財団法人持田記念医学薬学振興財団

zaidan@mochida.co.jp

2019年度持田記念学術賞受賞者



浦野 泰照 (うらの やすてる) 博士

東京大学大学院薬学系研究科 教授

受賞研究テーマ

「各種蛍光プローブの論理的精密開発とその実臨床適用を志向した
先導的研究」

浦野博士は、独自の光有機化学的発想に基づいて光誘起電子移動と分子内スピロ環化を動作原理とする論理的な蛍光制御原理を世界に先駆けて確立し、これらに基づきライブイメージングや細胞機能制御を実現する新たな光機能性分子を多数開発することに成功しました。例えば、新しい分子デザインによって自発的に明滅を繰り返すブリンキングプローブの開発に世界で初めて成功し、穏和な条件での生細胞超解像イメージングを可能としました。

さらに同設計法に基づき、外科・内視鏡手術時に局所スプレーすることで、秒～分単位での世界最速のがんイメージングを可能とするプローブ群を開発し、これまでに患者由来の摘出新鮮臨床検体で、食道、肝臓、口腔、肺、甲状腺、乳がんをそれぞれ高い正診率で発見可能であることを明らかにしました。

浦野博士のこれらの研究成果は、他の研究者とは一線を画するもので、がんイメージングとして臨床に貢献することが期待される、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- | | |
|------------|-------------------------------|
| 1967年6月4日生 | |
| 1990年3月 | 東京大学 薬学部 卒業 |
| 1995年3月 | 東京大学 大学院薬学系研究科 博士課程修了 |
| 1995年4月 | 日本学術振興会特別研究員 (PD) |
| 1997年5月 | 東京大学 大学院薬学系研究科 助手 |
| 2005年10月 | 東京大学 大学院薬学系研究科 准教授 |
| 2010年1月 | 東京大学 大学院医学系研究科 教授 (2014年から兼務) |
| 2014年6月 | 東京大学 大学院薬学系研究科 教授 |

○主な受賞歴

- | | | | |
|-------|----------|-------|-----------------------|
| 2011年 | 日本学術振興会賞 | 2012年 | 読売テクノ・フォーラム ゴールド・メダル賞 |
| 2015年 | 井上学術賞 | 2017年 | 山崎貞一賞 |

2019年度持田記念学術賞受賞者



竹田 潔 (たけだ きよし) 博士

大阪大学大学院医学系研究科 教授

受賞研究テーマ

「腸管恒常性を維持する分子の発見・同定とその分子機構の解明」

竹田博士は、腸内細菌と腸管免疫系が存在する粘膜固有層とを隔てる腸管上皮細胞がバリア機能を有しているためであるとの仮説の基に、遺伝子欠損マウスなどの幅広いツールを駆使して大腸上皮細胞に特異的に発現する GPI アンカー型タンパク質 Lypd8 が細菌の鞭毛に結合してその運動性を抑制することを見出し、腸管恒常性の維持に関与することを明らかにしました。

また、腸内細菌依存性に腸管腔内で増加するアデノシン 3 リン酸 (ATP) が、腸管特有の自然免疫細胞を活性化し、炎症性 T 細胞 (Th17 細胞) を誘導することを発見しました。

さらに、腸内細菌が産生する乳酸とピルビン酸が、マウス小腸のマクロファージの樹状突起の伸長を誘導し、腸管腔内の抗原の取り込みを促進し、獲得免疫応答を増強することを見出しました。

竹田博士のこれらの研究成果は治療標的に繋がる腸管恒常性維持機構の解明であり、炎症性腸疾患 IBD の病態解明と治療法開発への応用が期待される、世界を先導する先見的・独創的な研究業績であります。

- 主な略歴
- 1966年 12月 21日生
 - 1992年 3月 大阪大学 医学部 卒業
 - 1998年 3月 大阪大学 大学院医学系研究科 博士課程修了
 - 1998年 4月 兵庫医科大学 生化学講座 助手
 - 1999年 4月 大阪大学 微生物病研究所 助手
 - 2003年 12月 九州大学 生体防御医学研究所 教授
 - 2007年 4月 大阪大学 大学院医学系研究科 教授
 - 2019年 7月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 拠点長

○主な受賞歴

- 2010年 日本学術振興会賞
- 2016年 大阪科学賞
- 2016年 ベルツ賞